

## 競技について（全国高等学校選抜フェンシング大会）

以下は、競技において重要と考えられるFIE競技規則の抜粋・要約または全国高等学校フェンシング専門部が主催する大会の特別規定である。下記以外の規定のない事項については、FIE競技規則に準じることとする。

(t.〇〇、m.〇〇…FIE競技規則 ☆…全国高体連フェンシング専門部特別規定)

### [1] 受付☆

試合は試合開始予定時刻より早まることがある。

これに伴いコールの時間が早まることがあるため、D Tからの放送や本専門部HP試合進行状況情報、D T掲示板発表等に充分注意すること。遅れた場合は罰則が適用される。

「運営責任者が行う受付」

指定時間から20分後に終了する。

その後、試合予定順に従って放送で連絡し、受付を開始する。

(2回戦以降は前回戦が終了次第、連絡する。直ちに受付に応じること。)

受付には監督が応じ、メンバー表を提出する。

### [2] コール☆

「ピスト上のコール」

監督・選手が揃って応じること。

この時、出場選手は直ちに試合の出来る服装・用具を整えていること。

### [3] 選手の服装・用具 (m.25、m.33)

選手は、自己責任のもと、また危険を承知で武器、用具、ユニフォームを使用してフェンシングを行う。(t.20)

- (1) ユニフォーム(上下)350N以上またはFIE公認マーク付き(800N)・半袖プロテクターFIE公認マーク付き(800N)・マスクFIE公認マーク付き(1600N)を着用すること。☆
- (2) 女子選手は(1)の胸当ての他に、上着の下に金属または固い材料で出来ている胸当てを両胸につけること。またフルーレでは、その上にソフトカバーFIE公認マーク付きを着用すること。
- (3) 上着の下部は選手のズボンを10cmは覆うこと。
- (4) グローブは前腕の半ばまで覆うものを使用すること。
- (5) 脛の出ない厚手の黒以外のストッキングを着用すること。
- (6) ゼッケンは規定どおり付けること。☆
- (7) サーブルについては、サーブルクローブFIE公認マーク付き(800N)を着用すること。
- (8) フルーレの有効面は四肢と頭を除く胴体部分に限定され、上限は鎖骨の突起の上最大6cmまでの襟の部分とし、両端は上腕骨の上端部分を横切る袖の縫い目まで、下限は背中部分の両腰骨の最上点を結ぶ水平なラインと、それに続いて大腿部の付け根の線が交わる部分への直線によって定められる。さらに、顎の下の1.5cm~2cmの水平のラインから下の部分のビブも、有効面に含まれる。ただし、その顎の下の水平のラインは、いかなる場合においても、両肩を結ぶラインより下であってはならない。

### [4] 用具検査☆

大会要項を参照し、必ず用具検査に合格し、所定の検査合格証がついていること。

### [5] 試合進行

- (1) 左利きの選手の多いチームがプレジダンから見て左側に位置する。
- (2) 試合終了後、監督が記録確認の署名をすること。
- (3) 事故及び病気の取扱について(痙攣も含む)☆

医師または技術委員会の判断により、主審または技術委員会は最大限5分間の治療のための休息(インジュリータイム)を与えることができる。ただし、インジュリータイムは必要な治療のみに費やす。

同日中の同種目においては異なる負傷や痙攣または急性医療事変が原因でない限り、再び治療のための休息は与えられない。

- (4) リザーブに指定された選手の交替
- ① 監督はプレジダンに対し、メンバー表提出時にリザーブに指定した選手と他の1選手との交替を請求できる。
  - ② 選手の交替は、当該試合の1試合前までに監督がプレジダンに通告しなければならない。
  - ③ 被交替選手は、その試合（学校対抗）にもう一度交替した選手と交替することができる。ただし、事故や避けられない状況による2度目の交替は認めない。
- (5) 選手が事故等で試合途中退場したときの選手の交替
- ① 監督は、技術委員会に対し代わりの選手を請求できる。
  - ② 被交替選手は、その試合（学校対抗）に再び出場することはできない。
  - ③ リザーブに指定された選手が代わって出場した場合は、メンバー表に記載されていなかった他の1選手は(4)の交替選手として出場することは出来ない。☆
- (6) 選手が試合順序を間違えて出場した場合  
誤った対戦順で行われた試合はすべて無効とし、正しい対戦順で行われた最終試合の次の対戦から再開する。
- (7) 試合が連続する場合の休息☆  
最大限15分とする。

[6] 競技方法

- (1) 1チーム5名編成で、3名の選手によるリレー方式とする。
- (2) 男女とも45本勝負で試合時間は、トーナメントは3分間（実働）とする。
- (3) 各試合の対戦は次の順序で実施する。  
3-6 1-5 2-4 1-6 3-4 2-5 1-4 2-6 3-5
- (4) トーナメント
  - ① 各対戦は、9試合45本を先取した方、または、9試合目が終了した時点で得点の多い方を勝ちとする。
  - ② 何らかの理由で選手が2名になった場合、その試合は負けとなる

[7] 抗議について

- (1) 選手が試合中に主審の事実問題に対する判定を疑って、この原則に違反した場合、規定にしたがって処罰される（t.158-162, t.165, t.170 参照）。しかし、主審が規則についての無知であったり、誤解があったり、または競技規則に反する方法でルールを適用したりした場合、この件に関する抗議は考慮される。事実問題は、トゥッシュの有効性や優先性、選手がピストのサイドライン、エンドラインを出たかどうか、選手の行動が第3グループや第4グループの違反であるかなど制限されず、ピスト上で発生したことを考慮する主審によって行われる判定を含む。（t.172）
- (2) 選手は主審に丁重にもっと徹底したフローズ・ダルムの分析を求めることができる。（t.63）

[8] その他☆

- (1) 組合せ、試合開始時刻、ピストの変更等、技術委員会からの連絡事項を放送または、DT掲示板で連絡するため注意すること。
- (2) 選手用に確保された場所（以下、選手ゾーン）を設置する。選手及び登録された監督が選手ゾーンに入ることができる。また、試合中は選手及び登録された監督は選手ゾーンにいなければならない。（t.132準用）